

分科会名：瞳輝くウェルビーイング分科会

- リーダー機関：東北大学
- 代表者名：永富 良一 拠点長
- リーダー名：中澤 徹 教授

我々が目指す将来社会像

**現在は身体機能差が
人と社会との繋がり（暮らし、仕事、
娯楽）を分断している**



- ・身体機能や老化/疾患に活躍の場が縛られる
- ・後手に回るヘルスケア
- ・診断技術だけでは分断が加速する

コロナ禍が分断に拍車をかけている

**誰もが人生のどのステージでも、共に
暮らし、働き、遊べる社会**



- ・情報障がい者ゼロ
- ・気づきと身体拡張技術のインフラ化
- ・自発的な行動変容

日常的な行動変容による機能維持と、インクルーシブな社会のデザインが必要

瞳輝く喜びの街の実現

～誰もが人生のどのステージでも、共に暮らし、働き、遊べる社会～



①Team 1 こせいをいかす：ロービジョン者のエンパワメント

知覚の障害や衰えがあっても自立でき、社会に貢献することでQOLを高めながら、人と社会とつながる

アカデミア：高橋政代教授（立命館大学・神戸アイセンター）

②Team 2 みらいもなおす：未病者のエンパワメント

知覚の情報から将来の疾患を予測、フレイルから遠ざけることでQOLを維持し、人と社会とつながる

参画企業：あっと株式会社、千寿製薬株式会社

アカデミア：中澤徹教授（東北大学医学系研究科眼科）、
寶澤篤教授（東北大学東北メディカル・メガバンク機構）

③Team 3 わたしをかえる：健常者のエンパワメント

知覚を通じたモチベーション向上とコミュニケーション促進によりQOLを高め、人と社会とつながる

参画企業：ロート製薬株式会社、株式会社わかさ生活

アカデミア：永富良一教授（東北大学医工学研究科）、未来社会健康デザイン拠点

5か年計画

